



クローズアップ
CLOSE UP

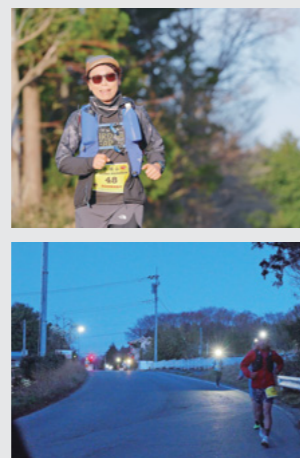
赤城に向かう春色の道

さくらの名所100選の地に選ばれている赤城南面千本桜で、桜まつりを4月16日まで開催。特産品などのふれあい物産市やステージパフォーマンスなどさまざまなイベントを実施しました。訪れた人は桜並木のトンネルや公園内の日本と世界の桜の共演を楽しみました。



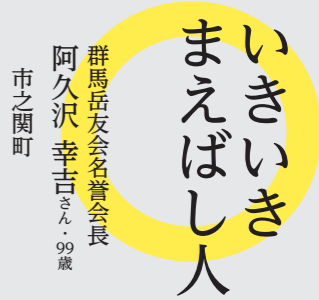
言葉の持つ世界を堪能

前橋文学館で「世界が魔女の森になるまで 第30回萩原朔太郎賞受賞者 川口晴美展」を5月21日(日)まで開催中。受賞作品や、詩作のために歩んだ軌跡を本人所有の資料などで紹介しています。また、3月19日には関連イベントの歴代受賞者座談会を開催しました。



赤城山1周を駆け巡る

富士見温泉見晴らしの湯ふれあい館を発着点に、赤城山1周100kmを反時計回りする赤城山100ウルトラマラソン検証実験を3月21日に開催。54人が参加し、朝5時に出発しました。16時間以内の完走を目指す様子は二次元コードからご覧ください。



元気の秘訣は日々の継続



96歳の時、その年の最高齢で富士山に登頂した阿久沢さん。昨年は数え年で100歳の記念登山として群馬岳友会の仲間と鍋割山に登頂し、今月5回のペースで登山に出掛けている。「体力維持のためもあります。今日も登れた！という達成感があるから続けています」元気の秘訣は、日々を同じリズムで過ごすこと。「毎朝6時に朝ごはんを食べ、6時30分にデイサービスへボランティアで手伝いに行きます。日中は絵や書を書いたり、登山に行ったり。特別、運動をしたり食事では使ったりしていることはありません。一年中同じ生活をしているのがいいのかな。デイサービスはほぼ毎日、職員の人より手伝いに行っています」と笑う。書道は15歳、絵画は60歳で始め現在は絵画教室を開講する阿久沢さん。自宅兼教室の「楽美苑」では、師範の腕前を持つ書道作品や阿久沢さんがこれまで訪れた山々の風景などの絵画、彫刻作品などがずらりと並び、「教室には10人の生徒が通っていて、毎年桜の咲く時期には作品展を開いています。教室の仲間やデイサービスの職員たちと登山に行くことも多いですよ。送り迎えも含めみんなが協力してくれて、ありがたいです」6月に100歳の誕生日を迎える阿久沢さん。周囲には、日々いきいき過ごすその人柄を慕う多くの仲間が溢れている。

スローシティの取り組みを紹介するこのコーナー。今回は、スローシティについて紹介します。スローシティとは、イタリア・オルビエト市などが発祥の、地域の食や農産物、生活、歴史文化、自然環境を大切にされた個性・多様性を尊重したまちづくりを目指す取り組みです。スローシティ国際連盟は、本市の友好都市のイタリア・オルビエト市に本部があり、世界33カ国287都市が加盟しています(3月現在)。本市は、「スローシティ前橋・赤城」として平成29年に加盟しました。スローシティはまちづくりの理念。難しく感じるかもしれませんが、昔から受け継いできたことや日常にある当たり前のこと、例えば、自然の中でキャンプをする、前橋産の野菜や果物を食べる、地域の伝統行事に参加



[Vo.1] スローシティって何? 固 観光政策課 ☎ 027-257-0675



自然の中でキャンプを楽しむ

加することもスローシティの取り組みです。効率化が優先される社会の中でも、豊かな自然と歴史を身近に感じ、手間暇をかけた生活の喜びを実感できるようなまちにしたい。誰もが心も体も良い状態(Well-being)で過ごすために、ゆつくりと、丁寧に、スローシティの理念をかたちにして、前橋を誇れる大地にしていきたい。そんな思いの人々とながら幸せの響くまちづくりを目指しています。新緑の美しい季節。キャンプやサイクリングで自然を楽しみ、スローに過ごしてみ